大変重要である。 た人々の営為を知 大きな間違いであ	の021 授業 環境年 詳武、人は受験 の過るるで、 の過るるで、 での味科科学技術	ア史 改訂版(検定教科書 世B 31 次郎  「観が揺らぎ確実に道を示してくれる基準 また、生きてきた環境の大きな変化、大き にい。また、現在の科学技術の変化は大き、 には過去からの積み重ねが非常に大きく、 にの新しいヒントを得ることも可能である 理想的な到達レベルの目安 世界の歴史について十分な知識と 理解を持ち、積極的に意見を述べることができる 過去の世界で起きた出来事を多面的に理解し、説明することができる 世界の歴史を学ぶことで得られた 教訓やヒントを将来の日本や自分 の問題とあわせ考えることができる	科目区分 単位の種別と単位 対象学年 週時間数 0) や思想なども有観ことを記念速で、たしたことを記念をで、たしたことを記念をある。こうしたことを記念をある。こうには、では、の歴史がある。こうに、の歴史にある。こうに、の歴史にある。こうに、の歴史にある。こうに、科学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。このでは、大学技術がある。このでは、大学技術がある。こうに、大学技術がある。こうに、大学技術がある。このでは、大学技術がある。このでは、大学技術がある。このでは、大学技術がある。このでは、大学技術がある。このでは、大学技術がある。このでは、大学技術がある。これに、大学技術がある。これに、大学技術がある。これに、大学技術がある。これに、大学技術がある。これに、大学技術がある。このでは、大学技術がある。これに、大学技術を表情がある。これに、大学技術がある。これに、大学技術を表情がある。これに、大学技術などのでは、大学技術などのでは、大学技術などのでは、大学技術などのでは、大学技術などのでは、大学技術などのでは、大学技術などのでは、大学技術などのでは、大学技術などのでは、大学技術のでは、大学技術などのでは、大学などのでは、たっないでは、たっないでは、ためないのでは、大学などのでは、大学などのは、大学などのは、大学などのでは、大学などのでは、大学などのでは、大学などのは、ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	一般 / 必修 一般 / 必修 を疑われて久しい。 変容および消の価が ・思想がその成果で ・思想がその政業にの ・思して一定の理解が ・である。 ・である ・でる ・でる ・である ・でる ・である ・でる ・でる ・である ・である ・である ・でる ・でる ・でる ・でる ・でる ・でる ・でる ・で	2 その中で、世界の歴史を学ぶのはどを経験してきたのである。そうし直もないと思う向きもあるがこれはの密接に結びついていることが多いのぞんでもらいたい。 本到達レベルの目安 世界の歴史について十分理解しておらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓やヒントを得ることができない		
科目番号 授業学科 開設期 教科当教員 到達す重々なな史 ループリック 評価項目1 評価項目3 学科育方法等 概要 変点。	授業 環境年 詳議長 研説表 での場合意。、 人は大き技術 でのよるで、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 を使いまする。 を使います。 を使いまする。 を使いまする。 を使いまする。 を使いまする。 を使いまする。 を使いまする。 を使いまする。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使いま。 を使いま。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使いま。 を使いま。 を使います。 を使います。 を使いま。 を使いま。 を使いま。 を使います。 を使いま。 を使い。 を使い。 を使い。 を使い。 を使い。 を使い。 を使い。 を使い	界史 改訂版(検定教科書 世B 31 な次郎	単位の種別と単位 対象学年 週時間数 0) い思想なども存観であるとでであったしたとのでは、一世のは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のは、一世のでは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世の	対数 履修単位: 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 その中で、世界の歴史を学ぶのはどを経験してきたのである。そうし直もないと思う向きもあるがこれはの密接に結びついていることが多いのぞんでもらいたい。 本到達レベルの目安 世界の歴史について十分理解しておらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓やヒントを得ることができない		
授業形態 開設期 教科書/教材 担達 書/教材 担達 す重々なと の間違字 ルーブリック 評価項目1 評価項目2 学育方 概要 授意点	授業 環境年 詳議長 研説表 での場合意。、 人は大き技術 でのよるで、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 でのようでが、 を使いまする。 を使います。 を使いまする。 を使いまする。 を使いまする。 を使いまする。 を使いまする。 を使いまする。 を使いまする。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使いま。 を使いま。 を使います。 を使います。 を使います。 を使います。 を使いま。 を使いま。 を使います。 を使います。 を使いま。 を使いま。 を使いま。 を使います。 を使いま。 を使い。 を使い。 を使い。 を使い。 を使い。 を使い。 を使い。 を使い	界史 改訂版(検定教科書 世B 31 な次郎	単位の種別と単位 対象学年 週時間数 0) い思想なども存観であるとでであったしたとのでは、一世のは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のでは、一世のは、一世のでは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世の	対数 履修単位: 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 その中で、世界の歴史を学ぶのはどを経験してきたのである。そうし直もないと思う向きもあるがこれはの密接に結びついていることが多いのぞんでもらいたい。 本到達レベルの目安 世界の歴史について十分理解しておらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓やヒントを得ることができない		
開設学科 開設期 教科書/教材 担当教員 到達する要の間を 別動変重々なな史で営造いでこう ルーブリック 評価項目1 評価項目3 学科育方法等 概要 授業点	環境 番 環境 番 選 乗	界史 改訂版(検定教科書 世B 31 な次郎	対象学年 週時間数 0)	を疑われて久しい。 変容および消滅なを学ぶなど何の成果できまるので、授業にでいた。 を学ぶなどの成果できまって一定の理解がいて一定の理解ができた出来事についる。	、その中で、世界の歴史を学ぶのは どを経験してきたのである。そうし 値もないと思う向きもあるがこれは の密接に結びついていることが多い のぞんでもらいたい。 未到達レベルの目安 世界の歴史について十分理解して おらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解 や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓や ヒントを得ることができない		
開設期 教科書/教材 担当教員 到達目標 激動変を見ないできます。 別動変を見ないできます。 別動変を見ないできます。 別のではできます。 別のではできます。 別のではできます。 別のではできます。 別のでは、 別ので、 別のでは、 別のでは、 と、 と、 別ので、 と、 と、 と、 の。 と、 の。 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、	通年 詳説長 の中の過るるで、 科学技術 歴史上 法 基本的	界史 改訂版(検定教科書 世B 31 な次郎	週時間数 0) 地思想なども存在ではきた。 にきまた。こうで、た人のととをできた。こうで、た人のととをできた。 標準的な到達レク 世界の歴史がある 過去の定の世界解がある。 過去の定の理解がある。 世界割訓やヒントをきる。 で、入のを学える。 で、入のを学える。 で、入のを学える。 で、入のでは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こう	を疑われて久しい。 変容および消滅なら を学ぶなど何の価・ ・思想がその成果で 考えつつ、授業にない バルの目安 いて一定の理解が をた出来事につい である程度理解で	どを経験してきたのである。そうし値もないと思う向きもあるがこれはの密接に結びついていることが多いのぞんでもらいたい。  未到達レベルの目安 世界の歴史について十分理解しておらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓やヒントを得ることができない		
教科書/教材 担当教員 到達目標 激動変々なは要す重々の間違字の間違字で の間違字・ツク 評価項目1 評価項目3 学科育方法等 概要 授意点	詳説と 武長 変 の中去の味学技術 の過るる。 の過るる。 で、、科学学技術 歴史上 法 基本的	<ul> <li>試験が揺らぎ確実に道を示してくれる基準また、生きてきた環境の大きな変化、信託のまた、現在の科学技術の変化は大きく、の新しいヒントを得ることも可能である</li> <li>理想的な到達レベルの目安</li> <li>世界の歴史について十分な知識と理解を持ち、積極的に意見を述べることができる過去の世界で起きた出来事を多面的に理解し、説明することができるとができるとができる。</li> <li>世界の歴史を学ぶことで得られた教訓やヒントを将来の日本や自分の問題とあわせ考えることができる。</li> <li>関係</li> </ul>	の) を思想なども存在。 にでしてきた、昔のの社会を ででしたことを で、た人のことを で、た人の社会を で、たりしたことを 標準的な到達レイ 世界の歴史がある 過去の定の世界解がを 過去の定の理解がを で、た人のである。 過去のでの歴史をントを で、おり、こうした。 で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうしたことを で、こうした。 で、こり、 で、こうした。 で、こうした。 で、こうした。 で、こうした。 で、こうした。 で、こうした。 で、こうした。 で、こうした。 で、こう、 で、こう、 で、こう、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	を疑われて久しい。 変容および消滅なを学ぶなど何の成果で ・思想がその成果で ・まえつつ、授業にで ジルの目安 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	どを経験してきたのである。そうし値もないと思う向きもあるがこれはの密接に結びついていることが多いのぞんでもらいたい。  未到達レベルの目安 世界の歴史について十分理解しておらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓やヒントを得ることができない		
担当教員 到達目標 激動重月標 激動重の問題を からた大きを ループリック 評価項目1 評価項目2 評価項目3 学科育方法 概要 授業点	武長・支の中でのは対対が、個性を持続が、人人では、人人では、人人では、人人では、人人では、人人では、人人では、人人で	<ul> <li>試験が揺らぎ確実に道を示してくれる基準また、生きてきた環境の大きな変化、信託のまた、現在の科学技術の変化は大きく、の新しいヒントを得ることも可能である</li> <li>理想的な到達レベルの目安</li> <li>世界の歴史について十分な知識と理解を持ち、積極的に意見を述べることができる過去の世界で起きた出来事を多面的に理解し、説明することができるとができるとができる。</li> <li>世界の歴史を学ぶことで得られた教訓やヒントを将来の日本や自分の問題とあわせ考えることができる。</li> <li>関係</li> </ul>	や思想なども存在が にできた価値でできた。 は、こうしたことを 標準的な到達レク 世界の歴史がある 過去のでののである。 過去のでの歴史をとうである。 世界のからした。 世界のがある。 世界のがある。 世界のがある。 世界のがある。 世界のがある。 でのでのでは、 世界のがある。 は、こうした。 と、こうした。 は、こうした。 と、こうした。 は、こうした。 と、こう。 と、こう。 と、こう。 と、こう。 と、こう。 と、こう。 と、こう。 と、こう。 と、こう。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	変容および消滅なを学ぶなど何の価値・見想がその成果できまるとのした。 ・思想がその成果できることの目安 ・では、一定の理解が をた出来事についる。 では、ことから得られてある程度理解で	どを経験してきたのである。そうし値もないと思う向きもあるがこれはの密接に結びついていることが多いのぞんでもらいたい。  未到達レベルの目安 世界の歴史について十分理解しておらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓やヒントを得ることができない		
到達目標 激動する 世界情勢。 知を 世であるをあるを かまますの 間違い ぶこク に から	の中で、価値 の出意のはなった。 利利学技術 の過ぎ、科学技術 の過ぎ、科学技術 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	観が揺らぎ確実に道を示してくれる基準 ままた、生きてきた環境の大きな変化、信い。また、現在の科学技術の変化は大変 は過去からの積み重ねが非常に大きく、 での新しいヒントを得ることも可能である 理想的な到達レベルの目安 世界の歴史について十分な知識と理解を持ち、積極的に意見を述べることができる 過去の世界で起きた出来事を多面的に理解し、説明することができる 世界の歴史を学ぶことで得られた教訓やヒントを将来の日本や自分の問題とあわせ考えることができる 関係	でできた。 できた、昔のときで、たしたことをできた。 でたしたことをできた。 でたしたことをできた。 でたしたことをできた。 標準的の歴見がの歴史がののである。 過去のでの理理をといる。 世界の調やである。 世界の記している。 である。 でののででは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こ	変容および消滅なを学ぶなど何の価値・見想がその成果できまるとのした。 ・思想がその成果できることの目安 ・では、一定の理解が をた出来事についる。 では、ことから得られてある程度理解で	どを経験してきたのである。そうし値もないと思う向きもあるがこれはの密接に結びついていることが多いのぞんでもらいたい。  未到達レベルの目安 世界の歴史について十分理解しておらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓やヒントを得ることができない		
激動する世界情勢。 対変重要で営みをできるをできる。 大きでと対し、アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・	過去のは大きで、 で、科学技術  要項目との  歴史上  法 基本的	は、生きてきた環境の大きな変化、信い。また、現在の科学技術の変化は大変には過去からの積み重ねが非常に大きく、であるいとして、また。であるがまな到達レベルの目安を担解を持ち、積極的に意見を述べることができるができるができるができるができるとができるとができるができるができるができるができるができるができるができるができるができる	でできた。 できた、昔のときで、たしたことをできた。 でたしたことをできた。 でたしたことをできた。 でたしたことをできた。 標準的の歴見がの歴史がののである。 過去のでの理理をといる。 世界の調やである。 世界の記している。 である。 でののででは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こうでは、こ	変容および消滅なを学ぶなど何の価値・見想がその成果できまるとのした。 ・思想がその成果できることの目安 ・でででででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・でできる。 ・でできる。 ・でできる。 ・でできる。 ・でできる。 ・でできる。 ・でをきる。 ・でをきる。 ・でをできる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・で。	どを経験してきたのである。そうし値もないと思う向きもあるがこれはの密接に結びついていることが多いのぞんでもらいたい。  未到達レベルの目安 世界の歴史について十分理解しておらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓やヒントを得ることができない		
評価項目1 評価項目2 評価項目3 学科の到達目相教育方法等 概要 授業の進め方・方注意点	歴史上。	世界の歴史について十分な知識と 理解を持ち、積極的に意見を述べ ることができる 過去の世界で起きた出来事を多面 的に理解し、説明することができ る 世界の歴史を学ぶことで得られた 教訓やヒントを将来の日本や自分 の問題とあわせ考えることができ る 関係 の大きな事件、重要な人物の動向をおさ に講義形式ですすめ、適宜映像資料を用	世界の歴史についあり意見がある 過去の世界で起きて一定の理解があせた。 世界の歴史を学ぶた教訓やヒントをきる	た出来事につい る ぶことから得られ さある程度理解で	世界の歴史について十分理解しておらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓やヒントを得ることができない		
評価項目2 評価項目3 学科の到達目標 教育方法等 概要 授業の進め方・方 注意点	歴史上。	世界の歴史について十分な知識と 理解を持ち、積極的に意見を述べ ることができる 過去の世界で起きた出来事を多面 的に理解し、説明することができ る 世界の歴史を学ぶことで得られた 教訓やヒントを将来の日本や自分 の問題とあわせ考えることができ る 関係 の大きな事件、重要な人物の動向をおさ に講義形式ですすめ、適宜映像資料を用	世界の歴史についあり意見がある 過去の世界で起きて一定の理解があせた。 世界の歴史を学ぶた教訓やヒントをきる	た出来事につい る ぶことから得られ さある程度理解で	世界の歴史について十分理解しておらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓やヒントを得ることができない		
評価項目2 評価項目3 学科の到達目標 教育方法等 概要 授業の進め方・方 注意点	歴史上。	理解を持ち、積極的に意見を述べることができる 過去の世界で起きた出来事を多面的に理解し、説明することができる 世界の歴史を学ぶことで得られた教訓やヒントを将来の日本や自分の問題とあわせ考えることができる 関係 の大きな事件、重要な人物の動向をおさに講義形式ですすめ、適宜映像資料を用	あり意見がある 過去の世界で起き て一定の理解があ 世界の歴史を学ぶた教訓やヒントを きる	また出来事につい 5る ぶことから得られ むある程度理解で	おらず、意見もない 過去の歴史の出来事に対する理解 や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓や ヒントを得ることができない		
評価項目3 学科の到達目標 教育方法等 概要 授業の進め方・方 注意点	歴史上。	的に理解し、説明することができる 世界の歴史を学ぶことで得られた教訓やヒントを将来の日本や自分の問題とあわせ考えることができる 関係 の大きな事件、重要な人物の動向をおさいに講義形式ですすめ、適宜映像資料を用	て一定の理解があ 世界の歴史を学ぶた教訓やヒントを きる	ぶことから得られ たある程度理解で	や知識がない 世界の歴史を学ぶことから教訓や ヒントを得ることができない		
学科の到達目標 教育方法等 概要 授業の進め方・方 注意点	歴史上。	教訓やヒントを将来の日本や自分の問題とあわせ考えることができる 関係 の大きな事件、重要な人物の動向をおさいに講義形式ですすめ、適宜映像資料を用	た教訓やヒントを きる 「えつつ、科学技術」	である程度理解で	ヒントを得ることができない		
教育方法等 概要 授業の進め方・方 注意点	歴史上。	の大きな事件、重要な人物の動向をおさに講義形式ですすめ、適宜映像資料を用	いる。	セの発展について)	主目すべき事象を適宜紹介していく		
教育方法等 概要 授業の進め方・方 注意点	歴史上。	の大きな事件、重要な人物の動向をおさに講義形式ですすめ、適宜映像資料を用	いる。	<b>史の発展について</b> ?	主目すべき事象を適宜紹介していく		
概要 授業の進め方・方 注意点	法基本的	に講義形式ですすめ、適宜映像資料を用	いる。	<b>史の発展について</b> 流	主目すべき事象を適宜紹介していく		
注意点							
	授業中	に積極的に音見を述べ 発表がどま十分					
授業計画		こうなできることである。 大公なこび一刀	な準備のもと行える	るようにすること			
	週	授業内容		週ごとの到達目標			
	1週	ガイダンス		1年間の授業について			
	2週	古代オリエント世界		古代エジプト文明や古代メソポタミア文明について理解できる			
	3週	古代ギリシアとローマ		古代ギリシア文明と古代ローマ文明について理解できる			
	4週	古代インドと中国		古代インド文明と古代中国文明について理解できる			
1stQ	5週	イスラム世界の発展		イスラム教の成立とイスラム文化・帝国の発展につい			
	6週	中世ヨーロッパ		て理解できる   中世ヨーロッパの政治・経済・文化について理解できる			
前期	7週	中国と東南アジアの諸王朝		中国の諸王朝・東南アジアの諸国家について理解でき る			
	8週	ルネサンスのヨーロッパ		ルネサンスの成果	と後世への影響について理解できる		
	9週	近代以前の世界と日本		近代以前の世界と日本の交流について理解できる			
	10週	大航海時代		ヨーロッパの拡大がもたらした影響を理解できる			
	11週	産業革命		産業革命の技術的・社会的背景を理解できる			
	12週	フランス革命		フランス革命のもたらした成果と悲惨さを理解できる			
2ndQ	13週	アメリカの独立と発展		アメリカ独立がもたした影響について理解できる			
	14週	ヨーロッパの台頭と世界		ヨーロッパの力が世界を圧倒していた時代について理解できる			
	15週 16週	植民地化への抵抗 定期試験		植民地化された社会について理解できる			
	1週	帝国主義の時代		帝国主義時代のヨーロッパやその他の世界について理 解できる			
	2週	日本と欧米		日本がいかに欧米に学ぼうとしたかを理解できる			
	3週	第一次世界大戦への道		第一次世界大戦をもたらした政治・経済・科学技術について理解できる			
多数 3rdQ 後期	5週	第一次世界大戦 大戦の終結と講和		第一次世界大戦の開始から終結について理解できる 講和が短期間の平和しかもたらさなかった理由を理解			
	6週	大戦間期の世界		できる 戦争終結後の世界情勢を理解できる			
	7週	世界恐慌とファシズム		(リカラングは、カラのではりのでは、カラングは、カラングは、カラングは、カラングは、カラングは、カラングは、カラングは、カラングは、カラングは、カ			
	8週	ファシズムと日本		日本がファシズム化した理由について理解できる			
	9週	第二次世界大戦への道		第二次世界大戦がなぜ起きたかについて理解できる			
4thQ	10週	第二次世界大戦		第二次世界大戦について理解できる			

	11週	冷戦と復興	冷戦と復興			戦争終結後、短期間で起きた米ソ対立と冷戦について 理解できる					
	12週	第三世界の台頭	三世界の台頭			植民地化された諸国の独立について理解できる					
	13週	米ソの対立		米ソ対立化の世界	米ソ対立化の世界情勢について理解できる						
	14週 情報技術の発達とグローバル化				グローバル化に向	グローバル化に向かう世界の状況について理解できる					
15週		新しい世界へ				過去の世界史を学んだ上で、今後の世界について展望 できる					
	16週 定期試験										
評価割合											
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計				
総合評価割合 80		20	0	0	0	0	100				
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50				
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20				
分野横断的能力	10	20	0	0	0	0	30				